

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年12月5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		静養スペースと活動スペースを分けて、利用児童が過ごしやすい空間を提供している	高学年が多数になると活動部屋で運動を取り入れる際に圧迫感を感じるかも知れない。時間を分けて実施などの工夫が必要になる
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	2		送迎時など事業所に滞在する対応職員が2名になることがあるため、送迎ルートの工夫や見直しが必要
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	どこになががあるのか？どのように利用するのかは視覚的配慮をするように意識している	玄関の段差は車椅子や歩行器を利用する児童を受入れる際は困難となるためその時には簡易のスロープが必要になるかも知れません
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃・消毒の実施。子どもに合わせた環境の設定を行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		使用理由は明確にするようにしています。何のために使用するのかは職員に相談してから使用出来るようにしています。	子どもの状況におうじては個室から出る時間が限られてしまうこともあ時折あるため、使用時間などの共有も必要性がある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		職員会議での検討内容と遂行状況や振り返りは定期的に全体で行っている	振り返る事を怠らないように続ける事。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価内容は全職員が閲覧できるように設定している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		どのように改善するかを職員と考える機会を設けている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は実施しておりません	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内・外研修の実施。年間スケジュールを元に職員全員が把握出来るようにしている	職員の立ち位置によっては見解の違いが生じることがある。エラーがないように同じ目録での対応の統一
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		アプリやおたよりを通じて公表しております	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		偏った判断となることがないように職員会議を常時開催し情報共有を行っている	アセスメント力の差が課題となるときがある
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		確定した支援計画は職員が確認できるように管理しております	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		ABC分析で考えるようにしています	状況理解の統一に差がある場合がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		各項目を意識した内容で設定しています	移行支援については今後多数の児童が対象となるため、進学、就労、生活介護などさまざまな事業所と連携が必要となることがあるため事前に各事業と連携や見学、体験などの実施が課題である
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		誰のための内容であるのか？ねらいは？を大切に内容を考えています	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		同じ内容であっても、職員の見せ方や促し方などの変化はつけている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個々に合わせた内容で作成されている	集団が難しい方はまず個別の関わりから支援を行っているため、最初は少し偏りがある

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前の打ち合わせから準備を行い、個々の役割で業務を遂行している	業務負荷がかからないようにすること
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		日々の振り返り・対応策・業務日誌の確認・閲覧出来るようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		アプリ（HUG）を利用して日々の記録や支援の内容を残している。職員全員が確認できるので課題などを把握しやすい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	6		4つの基本活動と5療育を組み合わせた内容で支援計画を立てております	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		保護者だけでなく本人と面談も重ねて今後の思いや目標、挑戦したいこと、を一緒に考えていく時間を設けています	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		開催時間によっては、児童発達管理責任者と直接支援者を同席するようにしています	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		共有すべき情報は適宜提供している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	学校との情報は率先して共有している	運転手からの報告を受け事業所からの連絡となるため多少の時間ロスが課題である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3	保護者同意後、情報の共有を行うことはある。	園によっては(卒園しているためという理由) 情報の共有が出来ない事もある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	卒業する対象の児童はいませんが、今後を見据えて進路説明会として開催しています。	まだまだ情報が足りないため、交流会や見学会などへの参加/情報の収集が必要である
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		神戸市発信の研修会に参加している	研修開催時間によっては、受講ができないことが現状である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	地域交流を目的としたイベントを開催するようにしている。	児童クラブや児童館では、怪我が伴う場合があると断られてしまったことがある。交流の目的を理解していただく行動が必要
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	できる限り参加している	開催日時によっては参加出来ない事もあり全ての参加が難しい事もある
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		子どもの引渡し時に様子をお伝えして家庭支援を共有頂く事もある	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	定期的の保護者交流会を開催し、みんなで学び共有する時間を設けています	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学・体験・契約の流れに沿って保護者へ説明は欠かさず行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングや面談時は保護者だけでなく、子どもも同席している。子どもだけ保護者だけの面談を実施することで双方の思いを願い、目標や困りごとを共有する事が出来る	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談しやすい関係の構築を目指しています。日々の様子の共有や、ご家庭の様子などは定期的に聞き取るようにしています	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		保護者の交流会／親子イベント／ご家族向けの交流会／地域交流のイベントを開催しご提供している	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		状況確認をして即日もしくは翌日（翌営業日）までにはたいおうすることをしている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		月1回のおたよりの発行、ホームページ・SNSでの普段の様子の発信を行っている。	個人情報や肖像権を意識した発信の課題
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		法人主催のイベントは地域のみなさんも参加出来るイベントを開催しています	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に研修や避難訓練・引き渡し訓練を行うことで各マニュアルについて周知、実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		保護者・医者と連携をとり、薬等の保管方法なども共有している	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		日々の振り返りの中でヒヤリと感じたことの記録は徹底してしている	どの職員もヒヤリハットとして捉えることの難しさ
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		職員自身のメンタルも合わせて管理できるようにする	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	2	対象児童がいる場合、計画への記載、保護者への説明は行っている。	やむを得ない場合に周りの子ども達への影響も懸念している